



保育の魅力

荒尾市保育士会



保育士23年目

『卒園児との再会』



18歳になる卒園児の男の子2名がある土曜日の午後、訪ねてきました。1人は地元で家業を手伝っており、もう一人は高校を卒業後、就職しながらプロのサッカー選手を目指しているとの事。この子は、保育園年長クラスの際に園児対象のサッカー大会を経験してから、小、中、高とサッカーを続け『プロになることしか考えていない』と話してくれるぐらい、サッカーを愛し続けている子です。今まで色々な挫折もあったけど、『プロになる』という強い思いから、一生懸命頑張ってきたそうです。保育園時代のサッカー大会の経験が10年以上、彼の人生の中心になっている事に喜びを感じます。

その子たちが話してくれた事で嬉しかった事が「小学校や中学校は卒業しても遊びに行こうとは思わない。でも保育園だったら、地元に戻って来たときや当時の友達と遊んだ時は“保育園に行こう！”という話になる」と言ってくれました。その言葉を聞いて、今まで保育士を続けてきて良かったなあと感じました。

保育士16年目 『子どもの成長を感じる喜び』

保育園の先生は子どもたちにとって、家族以外に出会う初めての大人。初めは泣いて親元を離れられずにした子が日に日に慣れ、笑顔で自分の胸に抱かれにきてくれる日がくる。

“自分を求めてくれる存在がいる” このことだけでも大きなやりがいを感じています。子ども一人ひとり違うため、保育者としてその子に何ができるか悩んだり、葛藤することも多いですが1日として同じ日はなく、日々新鮮で成長を感じる事ができた時の感動はとても大きなものです。



保育士28年目 『こどもたちの可愛い笑顔』

朝、保育室へ向かうと可愛い笑顔で挨拶にきてくれる。「おはよう」と声をかけながら、一人一人を抱きしめると、また嬉しそうな表情を見せてくれる。毎朝のこのやりとりはすごく癒され、またパワーをもらう事が出来、『今日も一日頑張ろう』という気持ちが増してくる。子どもの笑顔が見られて本当に幸せである。また、長く続けてきて小さかった子どもが大人になり、次は保護者として出会えた時、心から『保育士でよかったなあ』と思った。



保育士23年目 『M君のケーキ』

保育士になって数年、まだ自分の保育に自信が持てず、これでいいの？と自問自答していた頃の事です。

M君「先生、おはよう」

いつもより、早い登園のM君、お母さんと一緒に走ってきました。

M君「先生、これあげる」

M君の差し出した右手を見ると、アルミホイルに乗せられた、イチゴのショートケーキが握られていました。

母 「先生にあげたいと言って昨日から食べずにとっておいたんです」

M君「先生、おいしいよ、食べて」

そう言って力強く握られたケーキをM君は私に渡してくれました。生クリームが少しとけて、真っ赤なイチゴが今にも落ちそうでした。大好きなケーキを食べずに一晩我慢して届けてくれた気持ちを考えると胸がいっぱいになり、涙がこぼれました。日々戸惑いばかりの私でしたが、お母さんとM君の優しさにふれて気づかされたことがありました。難しいことはできないけれど、子どもやお母様方と優しさで繋がっていけばいい、何よりも一人ひとりの子どもの心や思いを大切にしていける保育を目指していきたいと思いました。今でも私の心の中にあの時の3人の笑顔と笑い声が響いています。



保育士5年目 『年長さんの成長』

保育士になり、5年目ですが初めて年少児から3年間持ち上がりで担当をさせていただいている。年少児だった頃は他のクラスに興味がなかった子どもたちが、今では小さい子のお世話やお手伝いを進んでしてくれたり、今の年少さんを見ると“あの頃は〇〇だったな”と振り返り、たくさんの成長を感じる事ができる。こんなに成長を感じられる仕事は保育士しかないと改めて実感する日々です。



保育士4年目 『七夕のお願いごと』

七夕の願い事を子ども達に聞いた時のこと。一人の女の子に「願い事何にする？」と聞くと「水になりたい！」と答えた。「どうして？」と聞くと「水はきれいだから」と。興味津々で「雨も水だよ」と保育士が言うと「でも、雨が上がったら虹が出るじゃん！」と答えてくれた。子どもの感性の豊かさに驚いたことと、何より純粋な心に感動した。



保育士13年目 『雨に濡れないようにね』

雨の日、帰る私に対してHちゃんが一言

「先生、バイバイ、雨にぬれないようにね」



優しい一言に一日の疲れも吹き飛び、“明日もこの子たちのために頑張ろう” と思いました。

保育士13年目 『おかわりは？』

Aちゃんの大好きなスパゲッティの日、「いただきます」と言ったと思いきや「おかわりある？」とおかわりの心配をしながら大きな口を開き食べていた。「私が全部食べる！」と食欲旺盛。とても可愛らしく感じた。

保育士17年目 『先生、ア～ン』

「先生、ア～ン」と言われてマスクのまま、口を開けると「だめ！これ取って」とマスクを取ることを求められました。はずしてもう一度「ア～ン」と言うと「フーフーしてあげるからまって！」と言いながら、「大丈夫？おいしい？」と食べさせる真似をしてくれました。その後「お茶？ジュース？コーヒー？どれがいい？」と飲み物までもってきてくれました。いつもわがまま言ったりするけれどその時ばかりはとてもお姉さんに感じました。



子ども達の可愛い一言を聞くことが出来たり、楽しいやり取りが毎日できるのも保育士の魅力のひとつです！

保育士8年目

私は現在1歳児クラス(誕生日が来て2歳になる子ども達)を担当しているのですが、子ども達は今、少しずつ話せる言葉が増えてきています。一生懸命自分なりの言葉で思いを伝えてくれたり、初めて「せんせい」と言ってくれた時などは、感動と嬉しさでとても幸せな気持ちになります。日々の生活の中で、少しずつ成長していく子ども達の姿を見ることが出来、保護者の方とも一緒に喜んだり出来ることは、かけがえのない素敵な経験をさせてもらっているなあと思います。



保育士33年目

「先生、こんにちは。」「こんにちは。」数年前の3月のある日、3人の卒園児が遊びに来ました。高校を卒業し、次の進路が決まり、報告しに来てくれたのです。「俺は〇〇に就職が決まりました。」「僕も就職が決まって遠方に行きます。」「俺は大学に行って教師を目指します。」卒園して12年。元気が良く、いつも喧嘩ばかりの3人でしたが、こうして成長した姿を見せにきてくれ、とても嬉しく保育士の仕事を選んで、続けていて良かったとしみじみ思いました。



保育士17年目

私は保育士になり、17年目に入りました。体力勝負のこの仕事ですが、子ども達と過ごす時間は、その疲れが吹き飛ぶ瞬間があります。夏祭りのお店屋さんごっこに向けて、年長児と一緒にくじ引きの景品を、折り紙で作っていた時のことです。「くじ引き、何が当たるかな？」と、話していると、Hちゃんが、「小吉、あるかなあ？」と一言。「Hちゃん、それ、おみくじね！」と、話すと、「あ、そうか！」と、Hちゃんも笑っています。子どもの何気なく発する言葉に癒されたり、元気をもらえるのは、保育士ならではの、です。



保育士20年目

0歳児のクラスで保育をしています。0歳児のクラスの子どもたちは目に見える成長を毎日見せてくれます。「初めて歩いた」「初めてせんせいと言えた」「初めて食べた」などの、子どもたちの初めてを保護者の方々と一緒に日々、傍で見守られる事はとても貴重な事だと感じています。昨日までできなかった事が、ある日突然できるようになる瞬間は毎日とても嬉しくて感動の連続です!!



保育士24年目

先日、散歩中にカエルを見つけ、手の中でぎゅーっと握りしめているRちゃん（年長児）。

「苦しそうじゃない？」「居た所に返したら？」と声をかけるが「園に持って帰る」と言って放そうとしないRちゃん。

I君が「かわいそうだし、カエルにも家族がおるけん、さっきの所に逃がしてあげて」と、手を合わせて何度もお願いする姿を見て、Rちゃんは「わかった」と、逃がしてあげた。命の大切さを子ども同士で考え、分かり合えた事、そして何より優しい心、思いやりの気持ちが育っていることが嬉しく、保育士で良かったと思える毎日です。



保育士36年目

保育士になって喜びを感じるのは、どんな場面でしょう。

あんよの出来なかった赤ちゃんが歩けたとき

おしっこがトイレでできるようになったとき

靴がひとりではけるようになったとき

自分の思いを少しずつ言葉で伝えられるようになったとき

保育士は子どもたちの大切な瞬間に立ち会える

たくさんの喜びを子どもたちと分かち合える素敵な仕事です。



保育士23年目



3歳児クラスでの出来事です。

子ども達がお部屋で自由あそびをしていたら、エプロンと三角巾をつけて、一人の子どもが、ままごとあそびをしていました。大きなお弁当箱に、ごちそうを沢山つめて、「今日は、パーティーよ。みんなおいで！」と呼ぶと、クラスの子子ども達が集まって来て、「美味しいね。」「これどうぞ。」等と言いながら食べる真似をして楽しんでいました。すると、「そんなに喜んでくれるなんて嬉しい！作って良かった。」と笑顔で話していました。とても、心が温まる一時でした。

子ども達は日々、目覚ましいスピードで成長していきますが、その時々を間近で感じ、やがては保育園を巣立っていく姿を見守ることが出来るのは、保育士の醍醐味です。

未来ある子ども達のキラキラした笑顔に囲まれ、毎日仕事出来ることを、幸せに感じています。

保育士8年目

1歳児担任の保育士です。子ども達と一緒にふれあい遊びをしている時のことでした。膝の上に座っていた男の子が、私の首元をじーっと見つめていました。首に黒い点が付いていることに気づき・・・「せんせい、いたいいたい？」と心配そうに優しく撫でてくれました。その黒い点は私のホクロだったのですが、繰り返しホクロを取ってあげようとする姿がとても可愛らしく、子ども達のピュアな心に癒やされた瞬間でした。



保育士15年目

0歳児担任の保育士です。入園して間もない頃の0歳児の子ども達は、泣いたり、不安な表情を浮かべることも多いですが、毎日一緒に過ごして愛情をかけることで、信頼関係が築かれていき、キラキラの笑顔を沢山見せてくれるようになります。保育士という仕事は、子どもの命を預かるという大切な仕事です。「かわいい」「楽しい」ばかりではありませんが、それでも「保育士になって良かった」と思えるのは、毎日子ども達の笑顔に癒やされ、パワーをもらい、楽しい日々を過ごしているからだと思います。



保育士20年目

3歳児クラスでの朝の会話の中から

保育士……「3密に気をつけましょうね。」



Aくん……「はちみつのことでしょう!？」

保育士……『ちがうよ。「みっぺい・みっしゅう・みっせつ」。あまりくっつきすぎ たりしないんだよ。

お友だちとくっついたらダメなんだよ。だから、お給食も離れて食べましょうね。』

子どもたち……『はい!』

かわいい子どもたちの会話でした。

保育士8年目

私は子どもたちと過ごす中で、きっとこの仕事をしていなかったら経験することはなかったであろう発見の毎日です。私たち大人が“当たり前”に感じていることも、彼らにとっては大発見。目をキラキラと輝かせ「先生すごいよ！！」と感激する姿、小さな目で見えるもの、小さな心で感じること、その小さなことを大きな喜びに変える力。大きな力を持つ子どもたちに魅力を感じつつ、その喜びを一番近くで共有し、子どもたちの笑顔と育ちのお手伝いができることを幸せに思う日々です。



保育士5年目

「カブトムシ！」と図鑑のセミのページを眺め、嬉しそうに呟く2歳のFちゃん。「それはセミだよ」と私が言うと、頬を膨らませ「カブトムシッ！」とキッとこちらを見て、また視線を落とした。　　そうか、彼女の中ではカブトムシなんだなあ。きっともう少ししたら、彼女の中のカブトムシもセミになり、正されていくのだろう。そう思うと可愛らしい間違いのカブトムシも愛おしく思えた。

そろそろ戸外活動の時間だ。「カブトムシ見に行く？」Fちゃんの目が輝いた。



保育士5年目

最近、保育士としての自分がうまくいっていない気がして、ため息が漏れた。子どもたちの前でいけない！と自分を鼓舞していると、隣に座っていたNちゃんが「あたし先生みたいになりたい」とポツリと呟いた。驚いてつい「どうして？」と口から出た。彼女はモジモジと体をくねらせ、それ以上何も言わなかったが、私の心の中の小さくなっていた灯をポツと明るくしてくれた。子どもたちの成長を見守るのが私たちの務めだが、逆もまた然りだ。



保育士3年目

“ 生後11 か月に入園した二人の子どもの姿を通して”

二人は寄り添うように遊ぶ。A が眠たくてぐずり始め泣き続ける姿を見た Y 。保育士は情緒の安定に努め、一生懸命あやし試行錯誤していた時、Y がおんぶ紐を引きずる様に持ってきた。わずか1歳2カ月のY 。とっさにとった優しさと思いやりの行動に、クラス職員が皆兄弟の様に過ごす二人。改めて子どもにとって園は第二の家庭であり、ゆったりとした環境作りや一人ひとりに寄り添うことの大切さに気づかされたエピソードです。素敵な一面に出会える私たちの仕事は幸せな気持ちになります。



保育士14年目

昨日出来なかったことが、今日出来た時に見せてくれる自分だけに向けられた笑顔が、保育士をしていて心から癒される瞬間の一つで、この笑顔があるからこそ続けていけます。嘘のない綺麗なまっすぐな瞳未来を見据えている瞳で見つめられると心が洗われ、自分を見返すことができます。普段の生活で気づけないことを“心”と接することで学ぶことができます。



保育士16年目

幼い頃、トイレトレーニングを頑張ったり、友達とトラブルを起こしやすく関わり方ですごく悩んだ子が年齢を重ねながら、どんどん成長していく姿 そして卒園式で胸を張り参加している姿を見た時は、感動で胸が一杯になり、とても幸せな気持ちです。我が子の様に真剣に向かい、心を込めて接している中で、一緒に悩み、悲しみ、喜び合った保護者の方に感謝の気持ちを言って頂き、嬉しさで胸が一杯になりました。人の役に立つ仕事なんだと実感しています。



保育士14年目

保育士の魅力は、子どもたちの成長を身近で感じられること。子どもたちの力や可能性は無限大で、昨日より今日、今日より明日と成長していく姿に感動する。悩むこともあるが、毎日が勉強の場。充実した日々を送っている。向上心も培われ、とても素敵な仕事だと思う。



保育士11年目

日々驚きや感動、笑いの連続です。子どものやる気意欲は、勇気をもらいます。純粋な目の輝き、愛情を受け止める事は、嬉しく励みにもなります。思う様な保育が出来ず悩む事はありますが、それ以上にやりがいのある仕事です。共に笑い喜び、過ごすことのできるこの仕事に就くことができ、良かったと思っています。

保育士 6年目

迷うことなく頼ってくれる子どもたち。安心して過ごす日々と、行事ごとを追い忙しい日々。一日一日を大切にと思い、卒園までの姿を思い浮かべながら生活しています。子どもたちと共に感性を高め共に成長していきたいと思っています。自信を持って、大好きなこの仕事をおもいきり楽しんでいきます。



保育士 2年目

入園当初、ハイハイもできなかつた子どもが、自分の足で1・2歩と歩ける様になった姿を目の当たりにすると、他の職業では感じるできない感動を感じることができます。また、0歳の子どもたちが、にっこり微笑んでくれる姿、自分を求めて近寄る姿を見ると、保育士になって良かったと改めて感じます。子どもたちの成長は、私の糧につながります。素敵な職業に就くことができ、とても幸せです。

